

東大型② 因果を圧縮する「なぜか」

名前：

点数： /18点

日付：

見つける → 指さす → 言いかえる → つなぐ → 書く — 手順は基礎編と同じ。素材の密度だけが上がる。

この一枚の技 最難関の「なぜか」は、理由が**段落をまたいで鎖状**に置かれる。原因→過程→結果の鎖を作り、指定字数へ圧縮する。傍線部のくり返しは0点（No.014の技の最終形）。

必要な情報をすべて機器に記録できる時代、私たちは覚えることをやめつつある。だが、記憶は単なる保存ではない。経験は、思い出されるたびに現在の関心と結びつき、編み直される。覚えているからこそ、過去は現在の問いに応じて呼び出され、考える材料になる。外部の記録は正確である。しかし記録は、こちらから問いかけないかぎり、沈黙したままなのである。

問1 傍線部「記憶は単なる保存ではない」と筆者が述べるのはなぜか。60字以内で説明せよ。

8点／目標7分

設計のヒント：直後の一文が根拠。「保存」との差＝思い出すたびに編み直される動的な働き。

問2 筆者が、外部の記録よりも自分で覚えていることを重んじるのはなぜか。80字以内で説明せよ。

10点／目標8分

設計のヒント：対比で設計：記憶＝問いに応じて呼び出され材料になる／記録＝問いかけないかぎり沈黙。両側を入れる。

問1 模範解答（55字前後）

記憶された経験は、思い出されるたびに現在の関心と結びついて編み直される、動きのある働きだから。

要素	採点基準	配点
核	思い出されるたびに編み直される（変化する）こと	4点
契機	現在の関心と結びつくこと	3点
形	文末「～から。」・傍線部のくり返しでない	1点

問2 模範解答（75字前後）

覚えていれば、過去は現在の問いに応じて呼び出され、考える材料になるのに対し、外部の記録は正確でも、こちらから問いかけないかぎり働かないから。

要素	採点基準	配点
記憶側	問いに応じて呼び出され、考える材料になる	4点
記録側	正確だが、問いかけないかぎり沈黙する（働かない）	4点
形	両側を対比の形でつなぎ、文末「～から。」	2点

添削ワンポイント（よくある失点）

問2で記録側（沈黙）を落とす答案が続出する。「なぜAを重んじるか」という設問は、比較対象Bの限界まで書いて初めて理由が完成する——対比記述（No.010・011）の最終形。字数の余りは要素不足のサイン。

自分の答案が何点か知りたい方は、答案の写真を日本国語塾TOPまでお送りください。要素ごとに採点し、失点の原因を手順のこ
とばで診断してお返しします。（無料相談：nihonkokugojuku.com ※URLは公開時に確定）